

趣 意 書

テーマ「専門基礎知識の面白さを再認識しよう」

今年度のテーマを「専門基礎知識の面白さを再認識しよう」としました。といっても、コテコテの医学的基礎知識を披露するわけではありません。専門基礎知識や基礎的研究と密接にかかわる臨床について、特別講演をお願いしました。

私たち理学療法士にとって、基礎医学の必要性を改めて問う必要はないと思います。しかし、日々の忙しい業務の中で、眼前の患者さんの応用動作のみに目が向きがちであり、あらためて医学的基礎知識に対し振り返る余裕が少ない方もおられるのではないのでしょうか。また近年はエビデンスの重要性が盛んに叫ばれています。エビデンスに基づいた理学療法とはどういったものか、不十分な知識のまま治療されている方もおられるのではないのでしょうか。そういった方々も、専門基礎知識、基礎的研究の面白さ、重要性を再認識していただけたらと思っています。

まず、特別講演のひとつとして、秋田大学工学資源学研究科准教授の巖見武裕先生にお願いしました。巖見先生は障害者の運動機能再建などをテーマに研究されており、身体運動のモデル解析については世界最先端の研究をされておられます。私たち理学療法士にとっても運動・動作解析は必須の基礎的知識・技術です。巖見先生の研究内容は、私たち理学療法士にとっても驚くものばかりと思います。

もうひとつの特別講演は、群馬県立小児医療センターの熊丸めぐみ先生です。熊丸先生は秋田大学医療技術短期大学部の卒業生であり、卒業後、群馬県立心臓血管センターで心臓のリハビリテーションに取り組まれ、現在、心臓のリハでは日本を代表する理学療法士のお一人です。心臓のリハは、コテコテの臨床と思われるかもしれませんが。しかし、医学や運動療法に関する基礎的な知識やエビデンスがなければ実施できない分野です。

本学会に参加されて、医学的基礎知識の学習意欲に刺激を与えることができれば幸いです。